

男鹿市学校施設長寿命化計画

令和3年3月

男鹿市教育委員会

令和5年4月 変更

目 次

(1)	学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	1
①	背景	
②	目的	
③	計画期間	
④	対象施設	
(2)	学校施設のめざすべき姿	4
(3)	学校施設の実態	5
①	学校施設の運営状況・活用状況等の実態	
1)	対象施設一覧	
2)	児童生徒数及び学級数の変化	
3)	学校施設の配置状況	
4)	学校敷地・グラウンドの状況	
5)	校舎・体育館の状況	
6)	プールの状況	
7)	給食センター	
8)	施設関連経費の推移	
9)	学校施設の保有量	
10)	今後の維持・更新コスト（従来型）	
②	学校施設の老朽化状況の実態	
1)	構造躯体の健全性の評価及び躯体以外の劣化状況等の評価	
2)	今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）	
(4)	学校施設整備の基本的な方針等	17
①	学校施設の規模・配置計画等の方針	
1)	学校施設の長寿命化計画の基本方針	
2)	学校施設の規模・配置等の方針	
②	改修等の基本的な方針	
1)	長寿命化の方針	
2)	目標使用年数、改修周期の設定	
(5)	基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	20
①	改修等の整備水準	
②	維持管理の項目・手法等	

(6)	長寿命化の実施計画	・ ・ ・ ・ ・ 23
①	改修等の優先順位付けと実施計画	
②	長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果	
(7)	長寿命化計画の継続的運用方針	・ ・ ・ ・ ・ 25
①	情報基盤の整備と活用	
②	推進体制等の整備	
③	フォローアップ	

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

① 背景

男鹿市の学校施設は、昭和56年以前に建築された旧耐震基準の学校施設については、耐震診断と必要に応じて耐震補強工事を行い、平成28年度までに耐震化を完了させているが、昭和40年代に建設された学校施設では、老朽化が進行しており、順次、大規模改修、改築（建替え）が必要となっている。

本市は、「健康・教育・環境でみんなが夢を実現できるまち」を目指しており、市総合計画基本構想において、まちづくりの基本目標の一つに「教育の振興」を掲げている。子供たちの学ぶ意欲を高め、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む学校教育を目指すとともに、学校教育環境の維持向上を図っている。地域住民にとっては生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場であり、災害時には避難所としての役割も果たす重要な施設であるため、学校施設の老朽化対策は、先送りできない重要な課題である。

本市は財源の多くが地方交付税を主とした依存財源に頼らざるを得ず、増え続ける行政需要に対応するため、前年度に引き続き事業の先送りや財政調整基金の取り崩しを行うなど非常に厳しい財政状況となっている。今後も市税などの自主財源の大幅な増加は見込めず、社会保障や老朽化した公共インフラの修繕・更新等に要する経費などの増大は避けられない状況である。

今後も学校施設を継続的に維持管理していくためには、経年劣化による改修費用だけでなく、改築（建て替え）にも多額の費用が必要になるため、コスト縮減や予算の平準化を検討する必要がある。併せて、人口減少や少子高齢化など社会情勢の変化も進行しているため、学校施設の適正配置も図る必要もある。

② 目的

平成25年11月、国土交通省において「インフラ長寿命化基本計画」が策定され、国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方向性が打ち出された。これを踏まえて、文部科学省では、所管又は管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中期的な取り組みの方向性を明らかにするため、「文部科学省インフラ長寿命化計画」を策定した。本市においても、インフラ長寿命化計画に基づき、インフラの維持管理・更新等を推進するための「男鹿市公共施設等総合管理計画」を平成29年3月に策定した。この計画を基に「学校施設長寿命化計画（個別施設計画）」を策定するとされており、この度本計画を策定するものである。

学校施設に関しては、小中学校施設の老朽化を調査し、今後予想される改修工事の内容、事業費、スケジュールについて、全体的な施設の長寿命化計画をたて、今後の整備計画、実施計画のための基礎資料とすることを目的として、令和3年3月に男鹿市学校施設長寿命化計画（以下「学校施設長寿命化計画」という。）を策定する。今後は当市における学校施設の個別計画と位置づけるものとする。

〔総務省事務連絡〕

「インフラ長寿命化基本計画」

戦略的な維持管理・更新等が行われた将来の目指すべき姿が示されており、年次目標が設定され、その達成に向けたロードマップが明らかにされた。

【目指すべき姿】

- ・安全で強靱なインフラシステムの構築
- ・総合的・一体的なインフラマネジメントの実現
- ・メンテナンス産業によるインフラビジネスの競争力強化

(平成 25 年 11 月 29 日 【インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議】より。)



〔総務省事務連絡〕

「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」

各地方公共団体において、本指針を参考とするほか、「インフラ長寿命化基本計画」を参考として総合管理計画を策定し、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するよう通知された。

(平成 26 年 4 月 22 日 【総務省事務連絡】より。)



「男鹿市公共施設等総合管理計画」

「インフラ長寿命化基本計画（行動計画）」と一体のものとして策定

公共施設等の状況（数、延べ床面積等）や財政状況、人口動態など、公共施設の現況及び将来の見通しのほか、施設の統合・更新・長寿命化等に関する基本的な考え方や総量等に関する数値目標など、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針を定める。



「個別施設計画」（各所管の取り組み、点検・修繕等）＜今後の取り組み＞

道 路	橋 梁	公 園	上 水 道	下 水 道	ガ ス	学 校	保 育 園	庁 舎	公 営 住 宅	・・・
--------	--------	--------	-------------	-------------	--------	--------	-------------	--------	------------------	-----



男鹿市学校施設長寿命化計画

③ 計画期間

令和 3 年～令和 28 年（ 5 年ごとに見直し）

学校施設長寿命化計画は、計画の終期を男鹿市公共施設等総合管理計画に合わせ、令和 28 年度とし、計画期間を 3 期に分けて見直しを行う。計画第 1 期の期間は令和 3 年度から令和 8 年度までの 6 年間とする。なお、児童生徒数の変化、社会経済情勢、国の補助制度の動向により早急に対応が必要な場合には、随時見直すものとする。

④ 対象施設

学校施設長寿命化計画の対象施設は、令和 3 年 2 月 1 日現在以下の施設があるが、幼稚園は市健康子育て課で管理し、令和 3 年 3 月 31 日の閉園が決定している。

学校教育施設	施設数
小学校	6 校
中学校	4 校
幼稚園	1 園
学校給食共同調理場	施設数
共同調理場	2 施設
若美学校給食センター	1 施設

計画対象施設 14 施設 34 棟 50,770 m ²					
施設	長寿命化対象の まとめた後の棟数		床面積 (m ²)		1 棟当たり面積 (m ²)
小学校 (6 校)	校舎	9 棟	19,028	37.5%	2,114
	体育館	6 棟	5,352	10.5%	892
中学校 (4 校)	校舎	11 棟	18,618	36.7%	1,693
	体育館	4 棟	5,784	11.4%	1,446
給食共同調理場	給食共同調理場	2 棟	662	1.3%	331
給食センター	給食センター	1 棟	726	1.4%	726
幼稚園	幼稚園	1 棟	600	1.2%	600
総計	14 施設	34 棟	50,770	100%	1,493

※小規模の附属建物を除き、棟を計画の単位でまとめて整理

(2) 学校施設のめざすべき姿

・安全・安心な施設環境の確保

学校施設は、児童・生徒の学習と生活の場であるとともに、地域コミュニティや防災拠点、避難所としての役割を果たす施設でもあるため、安全かつ安心な施設環境を確保することが必要である。

・教育環境の質的向上（快適・エコ・高機能・柔軟）

近年の教育内容・方法の多様化や児童・生徒の生活様式の変化等に沿って、トイレの洋式化、エアコンの設置や太陽光発電設備の導入、高断熱材の使用、LED 照明等環境に配慮した施設整備に向けて取り組む必要がある。さらに、情報化の進展と普及に伴い、ICT 環境の一体的な整備を効率的に進めるとともに児童・生徒一人ひとりの教育ニーズに応じて、少人数学習や特別支援教育に対応した施設を整備するとともに余裕教室の利活用として地域コミュニティや生涯学習の場として地域連携施設を設置することも必要である。

(3) 学校施設の実態

① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

1) 対象施設一覧

・学校施設の運営状況、児童生徒数（令和3年2月1日現在）

【小・中学校】

施設名称	所在地	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援 学 級	計
船川第一小	船 川 字 漆 畑 3 6 - 1	18	22	30	23	32	29	4	158
脇本第一小	脇 本 字 上 野 1 - 1	22	22	23	19	21	20	3	130
船 越 小	船 越 字 本 町 7	36	55	51	38	63	47	5	295
北 陽 小	北 浦 表 町 字 表 町 1 9	4	10	7	6	2	8	1	38
払 戸 小	払 戸 字 渡 部 9 7	6	9	15	12	13	14	1	70
美 里 小	鵜 木 字 松 木 沢 境 9 0	9	8	9	15	6	18	4	69
小 計		95	126	135	113	137	136	18	760
男 鹿 南 中	船川港南平沢字上大畑台 30	23	43	30	—	—	—	0	96
男 鹿 北 中	北 浦 字 山 王 林 4 0	9	5	12	—	—	—	2	28
男 鹿 東 中	船 越 字 根 木 1 6 9	89	104	87	—	—	—	2	282
潟 西 中	福 米 沢 字 八 卦 1 - 1	22	17	16	—	—	—	1	56
小 計		143	169	145	—	—	—	5	462

【幼稚園】

施設名称	所在地	年少	年中	年長				特別支援 学 級	計
若美幼稚園	鵜 木 字 白 榎 1	2	0	11	—	—	—	0	13

2) 児童生徒数及び学級数の変化

【小・中学校】

	施設名称	H20		H30		R1		R3 見込		R4 見込		R5 見込	
		級	人数	級	人数	級	人数	級	人数	級	人数	級	人数
1	船川第一小	7	214	7	189	6	161	6	154	6	146	6	144
	船川南小	6	86	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	脇本第一小	7	192	6	129	6	126	6	133	6	129	6	124
3	船越小	14	359	12	311	11	312	11	295	11	268	10	276
	五里合小	6	71	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	北陽小	6	86	5	53	5	48	4	36	3	35	4	32
5	払戸小	8	148	6	94	6	83	5	65	5	62	5	59
6	美里小	—	—	6	94	6	81	6	66	6	61	6	57
	鵜木小	6	67	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	野石小	6	68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	男鹿南中	6	200	3	102	4	111	4	95	3	83	3	85
8	男鹿北中	4	74	3	29	3	27	3	23	3	18	3	15
9	男鹿東中	13	391	10	281	10	289	10	277	9	272	9	251
10	潟西中	6	143	3	58	3	58	3	58	3	47	3	41
合計		95	2,099	61	1,340	60	1,296	56	1,202	55	1,121	54	1,084

※学級数には特別支援学級を含めていない。

※男鹿市立小・中学校再編整備計画による統合は見込んでいない。

【幼稚園】

	施設名称	H20		H30		R1		R3 見込		R4 見込		R5 見込	
		級	人数	級	人数	級	人数	級	人数	級	人数	級	人数
1	若美幼稚園	3	23	3	24	3	16	—	—	—	—	—	—

※若美幼稚園は令和3年3月31日で閉園。

3) 学校施設の配置状況

当市は秋田県臨海部のほぼ中央に位置し、東西および南北ともに約 24 km、面積 241.09 km²、日本海に突き出た半島の大部分が市域で、県都秋田市までは鉄道距離で 39.6 km、車で約 50 分の距離にある。市面積の半数以上が森林で、地理的な条件もあり集落が点在しているため、市内の広範囲において、小中学校が配置されている。

平成 17 年の市町村合併時は、小学校 9 校（旧男鹿地区 6 校、旧若美地区 3 校）中学校 6 校（旧男鹿地区 4 校、旧若美地区 2 校）であった。その後平成 20 年度には五里合中学校が潟西中学校へ、弘戸中学校が男鹿東中学校へ、平成 26 年度には五里合小学校と鵜木小学校が統合し美里小学校に、平成 27 年度には野石小学校が美里小学校へ、平成 28 年度には船川南小学校が船川第一小学校へ統合された。

若美幼稚園は市健康子育て課が管理し、令和 3 年 3 月 31 日の閉園が決定している。

男鹿市学校施設配置図



4) 学校敷地・グラウンドの状況

【小・中学校】

	施 設 名 称	学校面積 (㎡)	うちグラウンド 面積 (㎡)	備 考
1	船 川 第 一 小	4 2 , 3 2 2	1 4 , 7 6 2	
2	脇 本 第 一 小	1 9 , 4 9 0	1 0 , 3 8 9	
3	船 越 小	2 3 , 0 0 0	1 1 , 7 1 8	
4	北 陽 小	1 5 , 5 7 2	8 , 6 0 2	
5	払 戸 小	1 5 , 2 3 2	1 0 , 9 9 2	
6	美 里 小	3 2 , 2 8 7	1 7 , 9 8 8	
7	男 鹿 南 中	4 8 , 0 0 3	2 7 , 6 6 7	
8	男 鹿 北 中	4 4 , 8 0 2	2 5 , 5 2 4	
9	男 鹿 東 中	6 1 , 9 7 1	3 9 , 7 0 0	
10	潟 西 中	4 5 , 1 9 5	2 7 , 0 5 6	

【幼稚園】

	施 設 名 称	園面積 (㎡)	うちグラウンド 面積 (㎡)	備 考
1	若 美 幼 稚 園	4 , 9 8 2	1 , 5 5 7	令和3年3月31日 で閉園

学校敷地はすべて市有地である。グラウンドは、全ての学校、園で直線100mコースが確保されている。

グラウンドの課題としては、水はけ不良箇所の整備、フェンス、防球ネットの更新、表土の飛散対策などが挙げられる。

5) 校舎・体育館の状況

【小・中学校】

	施設名称	校 舎			体 育 館			備 考
		建築年	構造	面積 (㎡)	建築年	構造	面積 (㎡)	
1	船 川 第 一 小	S 51～52	R C	4,100	H28	S	1,033	
2	脇 本 第 一 小	H6～7	R C	3,293	S 59	S	951	
3	船 越 小	S 51～53	R C	3,772	S 51	S	732	
4	北 陽 小	H13	R C	3,721	H13	S	791	
5	払 戸 小	S 57	R C	1,935	S 54	S	870	
6	美 里 小	S 63	R C	2,534	S 63	S	825	
7	男 鹿 南 中	H4	R C	6,203	H4	S	1,465	
8	男 鹿 北 中	H2	R C	3,970	H2	S	1,188	
9	男 鹿 東 中	S 48～50	R C	6,312	H25	S	1,597	
10	潟 西 中	S 60	R C	2,647	S 61	S	854	

【幼稚園】

	施設名称	建 物			体 育 館			備 考
		建築年	構造	面積 (㎡)	建築年	構造	面積 (㎡)	
1	若美幼稚園	H5	S	600	—	—	—	

※市健康子育て課で管理し、令和3年3月31日閉園。

6) プールの状況

【小・中学校】

	施設名称	建築 (改修) 年	規 模				浄 化 装 置		備 考
			構造	うち競技用面積		競技用面積 算定基礎	ろ過 方式	ろ過 能力	
1	船川第一小	S48	コンクリート	480 ㎡	375 ㎡	15m×25m	砂	60t	
2	脇本第一小	S48	コンクリート	250 ㎡	250 ㎡	11m×25m	砂	30t	
3	船越小	S53	コンクリート	275 ㎡	275 ㎡	11m×25m	砂	40t	
4	北陽小	S56	アルミ	325 ㎡	325 ㎡	13m×25m	カートリッジ	50t	
5	払戸小	S44 (H12)	コンクリート	500 ㎡	425 ㎡	17m×25m	砂	90t	
6	美里小	S45 (H10)	コンクリート	500 ㎡	425 ㎡	17m×25m	砂	90t	
7	男鹿南中	H5	FRP	325 ㎡	325 ㎡	13m×25m	砂	60t	

7) 給食センター

	施設名称	所在地	建築年	構造	建物面積 (㎡)	備考
1	若美学校給食センター	払戸字渡部22	H12	S	726	

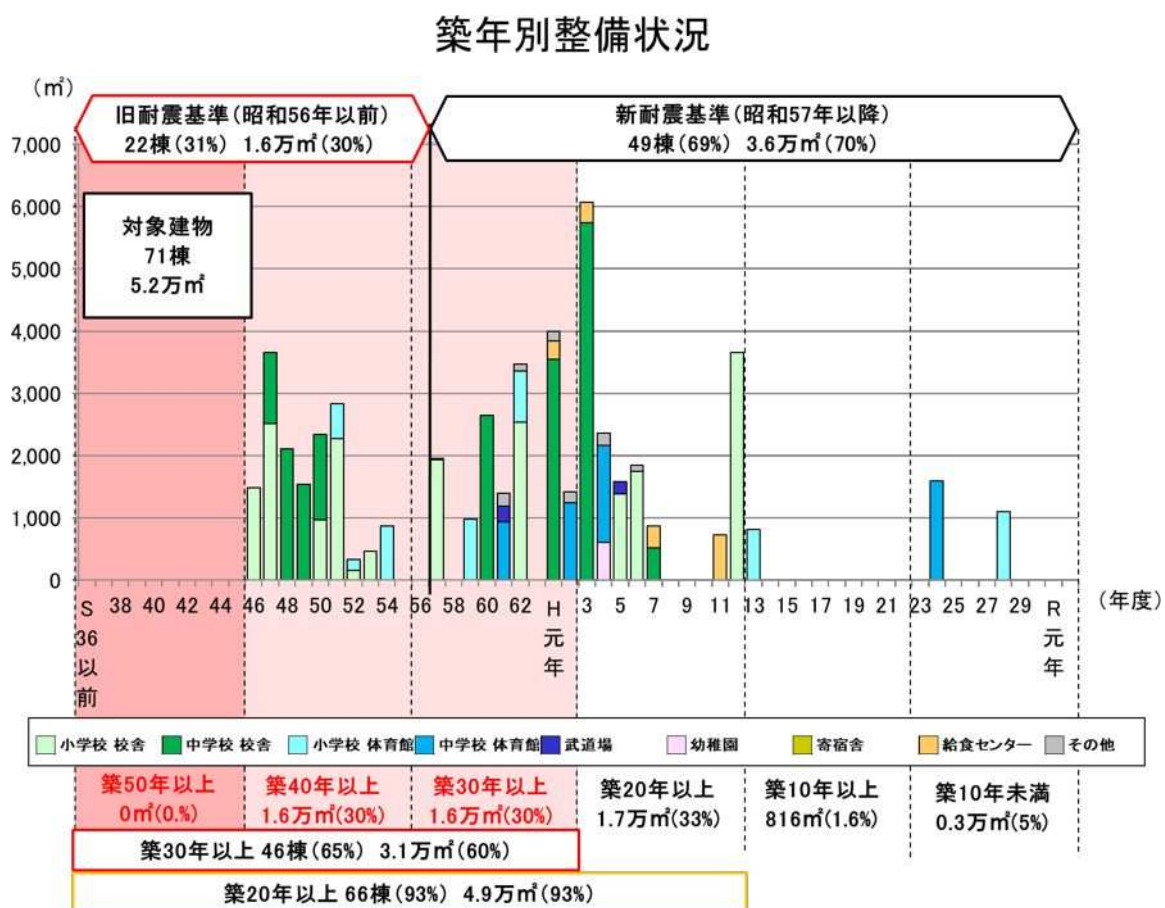
8) 施設関連経費の推移

単位（千円）

	H27	H28	H29	H30	R1 (H31)	5年合計	5年平均
施設整備費	468,356	459,775	6,085	41,802	30,777	1,006,795	201,359
その他施設 整備費	5,668	4,174	3,408	3,235	3,815	20,300	4,060
維持修繕費	12,280	11,337	18,001	6,910	6,972	55,500	11,100
光熱水費・ 委託費	77,059	73,671	77,468	76,523	69,503	374,224	74,845
合計	563,362	548,957	104,962	128,470	111,069	1,456,819	291,364

平成27年度から平成28年度にかけて、大規模な整備（船川第一小学校校舎大規模改修、・船川第一小学校屋内運動場改築、北陽小学校屋内運動場吊り天井撤去工事等）を実施したため、過去5年間の施設関連経費は年平均で2億9千万円と大きく膨らんだ。また、耐震化の取組みとしては「男鹿市耐震改修促進計画」により昭和56年以前（旧耐震基準）の建築物5棟の耐震改修工事を進め、平成28年度末時点で学校施設の耐震化率は100%となっている。平成29年度以降は平成30年度から令和2年度に男鹿南中学校の屋根防水改修工事を実施するなど維持修繕費での対応が主であった。今後は維持修繕費での対応を主とし、児童生徒の減少傾向による男鹿市立小・中学校再編整備計画による学校統合を視野に入れながら、学校施設の改築、施設の管理に努めていかなければならない。

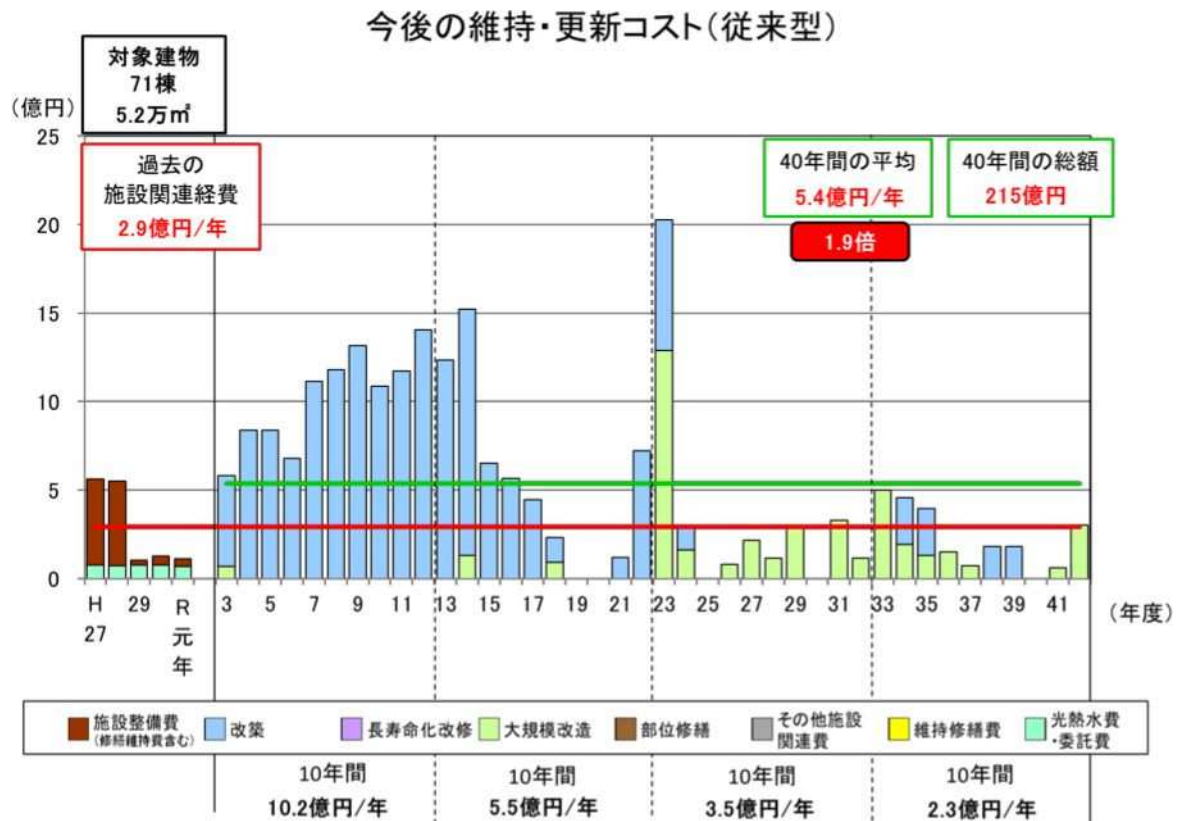
9) 学校施設の保有量



昭和56年以前（旧耐震基準）の学校施設は全体の30%を占めているが、学校施設の耐震化はH28年度の船川第一小学校屋内運動場改築工事ですべて完了している。

築30年以上経過した学校施設は、3.1万㎡で全体の60%である。

10) 今後の維持・更新コスト（従来型）



建築後20年で大規模改修を実施、建築後40年で改築（建替え）という従来型の更新サイクルを続ける仮定として、今後の維持・更新コストを試算した。

建築後40年で改築（建替え）する従来の修繕・改修を続けた場合、今後の40年間コストは215億円（年平均5.4億円）必要となる。これは、直近5年間の投資的経費年平均2.9億円の1.9倍である。

②学校施設の老朽化状況の実態

1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

○一級建築士が現地調査を実施し、劣化状況調査票を用いて構造躯体以外の劣化状況を把握する。屋根・屋上、外壁は目視状況により評価した。また内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価した。

※倉庫、部室、プール付属室はコスト試算からは除外している。

小学校

建物基本情報											構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考					
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定資 産台帳 番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根 屋上	外 壁		内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点満 点)	
						学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/㎡)								試算上 の区分
1	351	船川第一小学校	校舎	1-1		小学校	校舎	RC	3	1,478	1971	S46	49	旧	済	済	H24	30.4	長寿命	A	A	A	A	A	100	
2	351	船川第一小学校	校舎	1-2		小学校	校舎	RC	3	1,916	1972	S47	48	旧	済	済	H24	30.4	長寿命	A	A	A	A	A	100	
3	351	船川第一小学校	校舎	1-3		小学校	校舎	RC	3	601	1972	S47	48	旧	済	済	H24	30.4	長寿命	A	A	A	A	A	100	
4	351	船川第一小学校	プール付属室	6		小学校	その他	W	1	38	1973	S48	47	旧	-	-	-	-	長寿命	A	C	C	C	C	45	
5	351	船川第一小学校	プール付属室	7		小学校	その他	W	1	20	1973	S48	47	旧	-	-	-	-	長寿命	A	C	C	C	C	45	
6	351	船川第一小学校	部室	8		小学校	その他	W	1	20	1995	H7	25	新	-	-	-	-	長寿命	C	A	B	B	B	79	
7	351	船川第一小学校	倉庫	9		小学校	その他	S	1	210	1979	S54	41	旧	-	-	-	-	長寿命	A	A	C	C	C	62	元給食室
8	351	船川第一小学校	屋体	11-1		小学校	体育館	S	2	1,033	2016	H28	4	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	
9	351	船川第一小学校	屋体	11-2		小学校	体育館	S	1	71	2016	H28	4	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	渡り廊下
10	351	船川第一小学校	倉庫	12-1		小学校	その他	W	1	32	2016	H28	4	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	
11	355	船本第一小学校	プール付属室	11		小学校	その他	W	1	32	1972	S47	48	旧	-	-	-	-	長寿命	A	A	C	C	C	62	
12	355	船本第一小学校	プール付属室	12		小学校	その他	W	1	10	1972	S47	48	旧	-	-	-	-	長寿命	A	A	C	C	C	62	
13	355	船本第一小学校	屋体	14		小学校	体育館	RC	1	951	1984	S59	36	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62	
14	355	船本第一小学校	屋体	15		小学校	体育館	S	1	30	1984	S59	36	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82	渡り廊下
15	355	船本第一小学校	校舎	16		小学校	校舎	RC	1	701	1993	H5	27	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	C	B	60	
16	355	船本第一小学校	校舎	17-1		小学校	校舎	RC	2	686	1993	H5	27	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	C	B	57	
17	355	船本第一小学校	校舎	22-1		小学校	校舎	RC	2	1,741	1994	H6	26	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	C	B	57	
18	355	船本第一小学校	地域連携	22-2		小学校	その他	RC	2	101	1994	H6	26	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	C	B	60	
19	355	船本第一小学校	倉庫	23		小学校	その他	S	1	20	1995	H7	25	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62	
20	355	船本第一小学校	倉庫	24		小学校	その他	S	1	20	1995	H7	25	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72	
21	356	船越小学校	校舎	1-1		小学校	校舎	RC	3	972	1975	S50	45	旧	済	済	H16	21	長寿命	C	C	B	C	C	53	
22	356	船越小学校	校舎	1-2		小学校	校舎	RC	3	805	1976	S51	44	旧	済	済	H16	21	長寿命	A	C	B	C	C	58	
23	356	船越小学校	校舎	2-1		小学校	校舎	RC	3	1,383	1976	S51	44	旧	済	済	H16	21	長寿命	B	C	B	C	C	56	
24	356	船越小学校	校舎	2-2		小学校	校舎	RC	3	460	1978	S53	42	旧	済	済	H16	21	長寿命	B	C	B	C	C	56	
25	356	船越小学校	校舎	3		小学校	校舎	S	1	89	1976	S51	44	旧	-	-	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	91	調理室
26	356	船越小学校	屋体	4-1		小学校	体育館	S	1	560	1978	S51	44	旧	済	済	H16	21	長寿命	A	A	C	C	C	62	
27	356	船越小学校	屋体	4-2		小学校	体育館	S	1	172	1977	S52	43	旧	済	済	H16	21	長寿命	A	A	C	C	C	62	
28	356	船越小学校	校舎	5		小学校	校舎	S	1	130	1977	S52	43	旧	済	済	H16	21	長寿命	A	A	C	C	C	62	音楽室
29	356	船越小学校	校舎	6		小学校	校舎	S	1	30	1977	S52	43	旧	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	C	C	75	渡り廊下
30	356	船越小学校	倉庫	7		小学校	その他	W	1	40	1977	S52	43	旧	-	-	-	-	長寿命	A	B	C	C	C	55	
31	356	船越小学校	プール付属室	8		小学校	その他	W	1	39	1978	S53	42	旧	-	-	-	-	長寿命	C	C	C	C	C	40	
32	356	船越小学校	プール付属室	9		小学校	その他	W	1	10	1978	S53	42	旧	-	-	-	-	長寿命	B	B	C	C	C	53	
33	365	北陽小学校	校舎	1-1		小学校	校舎	RC	3	3,656	2000	H12	20	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	A	A	93	
34	365	北陽小学校	プール付属室	2		小学校	その他	W	1	37	1981	S56	39	旧	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72	
35	365	北陽小学校	プール付属室	3		小学校	その他	W	1	15	1981	S56	39	旧	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72	
36	365	北陽小学校	屋体	4		小学校	体育館	S	1	791	2001	H13	19	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	A	A	93	
37	365	北陽小学校	屋体	5		小学校	体育館	RC	1	25	2001	H13	19	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	A	A	A	93	渡り廊下
38	366	美里小学校	プール付属室	6		小学校	その他	W	1	16	1970	S45	50	旧	-	-	-	-	長寿命	A	A	C	C	C	62	
39	366	美里小学校	プール付属室	7		小学校	その他	W	1	25	1970	S45	50	旧	-	-	-	-	長寿命	A	A	C	C	C	62	
40	366	美里小学校	プール付属室	8-1		小学校	その他	W	1	12	1973	S48	47	旧	-	-	-	-	長寿命	A	A	C	C	C	62	
41	366	美里小学校	校舎	10		小学校	校舎	RC	2	2,534	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	C	C	66	
42	366	美里小学校	屋体	11-1		小学校	体育館	S	1	730	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	C	C	58	
43	366	美里小学校	屋体	11-2		小学校	体育館	S	2	95	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	C	B	62	渡り廊下
44	366	美里小学校	地域連携	11-3		小学校	その他	S	2	114	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	C	B	62	
45	366	美里小学校	倉庫	12		小学校	その他	W	1	41	1990	H2	30	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82	
46	1361	払戸小学校	屋体	1		小学校	体育館	S	1	870	1979	S54	41	旧	済	済	H23	21	長寿命	A	A	C	C	C	62	
47	1361	払戸小学校	校舎	7		小学校	校舎	RC	2	1,935	1982	S57	38	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	A	A	A	78	
48	1361	払戸小学校	屋体	8		小学校	体育館	S	1	24	1982	S57	38	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	渡り廊下

中学校・幼稚園・共同調理場

建物基本情報														構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考		
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定資 産台帳 番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・ 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備		健全度 (100点 満点)	
						学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/㎡)								試算上 の区分
49	3861	男鹿東中学校	校舎	1-1		中学校	校舎	RC	3	1,140	1972	S47	48	旧	済	済	H22	21.9	長寿命	A	C	B	B	B	67	
50	3861	男鹿東中学校	校舎	1-2		中学校	校舎	RC	3	2,103	1973	S48	47	旧	済	済	H22	21.9	長寿命	A	C	B	B	B	67	
51	3861	男鹿東中学校	校舎	2-1		中学校	校舎	RC	1	159	1974	S49	46	旧	済	済	H22	21.9	長寿命	B	B	B	B	B	75	
52	3861	男鹿東中学校	校舎	2-2		中学校	校舎	RC	1	124	1974	S49	46	旧	済	済	H22	21.9	長寿命	B	B	B	B	B	75	
53	3861	男鹿東中学校	校舎	3-1		中学校	校舎	RC	3	1,182	1974	S49	46	旧	済	済	H22	21.9	長寿命	A	B	B	B	B	77	
54	3861	男鹿東中学校	校舎	3-2		中学校	校舎	RC	3	1,082	1975	S50	45	旧	済	済	H22	21.9	長寿命	A	B	B	B	B	77	
55	3861	男鹿東中学校	屋体	4		中学校	体育館	S	2	1,597	2012	H24	8	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	
56	3861	男鹿東中学校	校舎	5		中学校	校舎	S	1	77	1974	S49	46	旧	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	渡り廊下
57	3861	男鹿東中学校	校舎	6		中学校	校舎	S	2	60	1975	S50	45	旧	済	済	H22	21.9	長寿命	A	B	C	C	C	55	渡り廊下
58	3861	男鹿東中学校	校舎	7		中学校	校舎	W	1	227	1975	S50	45	旧	-	-	-	-	長寿命	A	B	C	C	C	55	技術室
59	3861	男鹿東中学校	校舎	11		中学校	校舎	RC	1	522	1995	H7	25	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	食堂
60	3861	男鹿東中学校	倉庫	12		中学校	その他	W	1	20	2013	H25	7	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	
61	3861	男鹿東中学校	倉庫	13		中学校	その他	S	1	20	1992	H4	28	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	
62	3862	男鹿北中学校	校舎	1		中学校	校舎	RC	3	1,618	1989	H元	31	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	B	B	67	
63	3862	男鹿北中学校	校舎	2		中学校	校舎	RC	3	1,271	1989	H元	31	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	B	B	67	
64	3862	男鹿北中学校	校舎	3-1		中学校	校舎	RC	1	535	1989	H元	31	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	
65	3862	男鹿北中学校	地域連携	3-2		中学校	その他	RC	1	150	1989	H元	31	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	
66	3862	男鹿北中学校	校舎	4		中学校	校舎	RC	1	126	1989	H元	31	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	
67	3862	男鹿北中学校	プール付属室	5		中学校	その他	W	1	41	1971	S46	49	旧	-	-	-	-	長寿命	D	D	D	D	D	10	
68	3862	男鹿北中学校	プール付属室	6		中学校	その他	W	1	12	1971	S46	49	旧	-	-	-	-	長寿命	D	D	D	D	D	10	
69	3862	男鹿北中学校	屋体	7-1		中学校	体育館	S	1	1,188	1990	H2	30	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82	
70	3862	男鹿北中学校	地域連携	7-2		中学校	その他	S	1	176	1990	H2	30	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82	
71	3862	男鹿北中学校	屋体	7-3		中学校	武道場	S	2	194	1993	H5	27	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82	
72	3862	男鹿北中学校	屋体	8		中学校	体育館	RC	1	49	1990	H2	30	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	渡り廊下
73	3862	男鹿北中学校	部室	9		中学校	その他	S	1	130	1990	H2	30	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62	
74	3862	男鹿北中学校	部室	10		中学校	その他	S	1	95	1990	H2	30	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62	
75	3862	男鹿北中学校	倉庫	11		中学校	その他	S	1	20	1993	H5	27	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	
76	3863	男鹿南中学校	校舎	1		中学校	校舎	RC	1	670	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	食堂
77	3863	男鹿南中学校	校舎	2-1		中学校	校舎	RC	3	2,319	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62	
78	3863	男鹿南中学校	校舎	3-1		中学校	校舎	RC	3	2,502	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62	
79	3863	男鹿南中学校	地域連携	3-2		中学校	その他	RC	1	150	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72	
80	3863	男鹿南中学校	校舎	4		中学校	校舎	S	4	104	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	C	D	B	B	B	53	塔屋
81	3863	男鹿南中学校	屋体	5-1		中学校	体育館	S	2	1,465	1992	H4	28	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	B	B	67	
82	3863	男鹿南中学校	地域連携	5-2		中学校	その他	S	1	200	1992	H4	28	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	B	B	67	
83	3863	男鹿南中学校	屋体	5-3		中学校	体育館	S	1	101	1992	H4	28	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	B	B	67	部室棟
84	3863	男鹿南中学校	部室	6		中学校	その他	W	1	246	1992	H4	28	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	B	B	67	
85	3863	男鹿南中学校	プール付属室	7		中学校	その他	W	1	91	1993	H5	27	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77	
86	4362	浜西中学校	校舎	12		中学校	校舎	RC	2	1,070	1985	S60	35	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	
87	4362	浜西中学校	校舎	13		中学校	校舎	RC	2	1,577	1985	S60	35	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	
88	4362	浜西中学校	地域連携	14-1		中学校	その他	S	2	200	1986	S61	34	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77	
89	4362	浜西中学校	屋体	14-2		中学校	体育館	S	1	854	1986	S61	34	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	B	B	67	
90	4362	浜西中学校	武道場	15-1		中学校	武道場	S	1	252	1986	S61	34	新	-	-	-	-	長寿命	A	C	B	B	B	67	
91	4362	浜西中学校	屋体	15-2		中学校	体育館	S	2	84	1986	S61	34	新	-	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77	部室棟
92	6519	若美幼稚園	園舎	4		幼稚園	園舎	S	1	600	1992	H4	28	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
93	K022	北部共同調理場	給食センター	1		給食センター	給食センター	RC	1	263	1989	H元	31	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	C	B	B	52	
94	K022	北部共同調理場	給食センター	2		給食センター	給食センター	RC	1	28	1989	H元	31	新	-	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65	配膳室
95	K023	南部共同調理場	給食センター	1		給食センター	給食センター	RC	1	320	1991	H3	29	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	C	B	B	62	
96	K043	若美学校給食センター	給食センター	2-1		給食センター	給食センター	S	1	642	1999	H11	21	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
97	K043	若美学校給食センター	給食センター	2-2		給食センター	給食センター	S	1	84	1999	H11	21	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	渡り廊下
98	K080	東部共同調理場	給食センター	1		給食センター	給食センター	RC	2	342	1995	H7	25	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好	A 概ね良好
	B 部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
	C 広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化	D 早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価

【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
良好	A 20年未満
	B 20～40年
	C 40年以上
劣化	D 経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

2) 今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）

建替え中心から改修による長寿命化に切り替えていくためには、計画的に機能向上と機能回復に向けた修繕・改修を建物全体でまとめて実施する必要がある。

長寿命化により80年に建物を長寿命化した場合、今後40年間の維持・更新コストは総額約193億円（5億円／年）となり、従来の建替え中心の場合の215億円（5.4億円／年）より総額22億円（0.4億円／年）、約10%の縮減となる。

ただし、直近5年間の投資的経費の年平均2.9億円に対してまだ、1.7倍のコストがかかるため、長寿命化だけでは今後の財政に対応できない状況である。

今後は、少子化に伴う学校統合による新校舎建設と、閉校する校舎の維持管理費の縮減を考えていかなければならない。

コスト試算条件(長寿命化型)

<グラフの年表示>

基準年度 和暦

試算期間: 基準年の翌年度から40年間

改築

※1 試算上の区分(改築、長寿命)ごとに更新周期を設定する。
試算上の区分が未記入の場合は「改築」と同条件で算出する。

<改築、要調査> <長寿命> ※1

更新周期 年 年

工事期間 年

実施年数より古い建物の改築を 年以内に実施

長寿命化改修

<長寿命>

改修周期 年

工事期間 年

実施年数より古い建物の改修を 年以内に実施

大規模改造

改修周期 年周期

(ただし、改築、長寿命化改修の前後10年間に重なる場合は実施しない)

部位修繕 ※2

※2 躯体以外の劣化状況が未記入の場合は、部位修繕は算出されない。

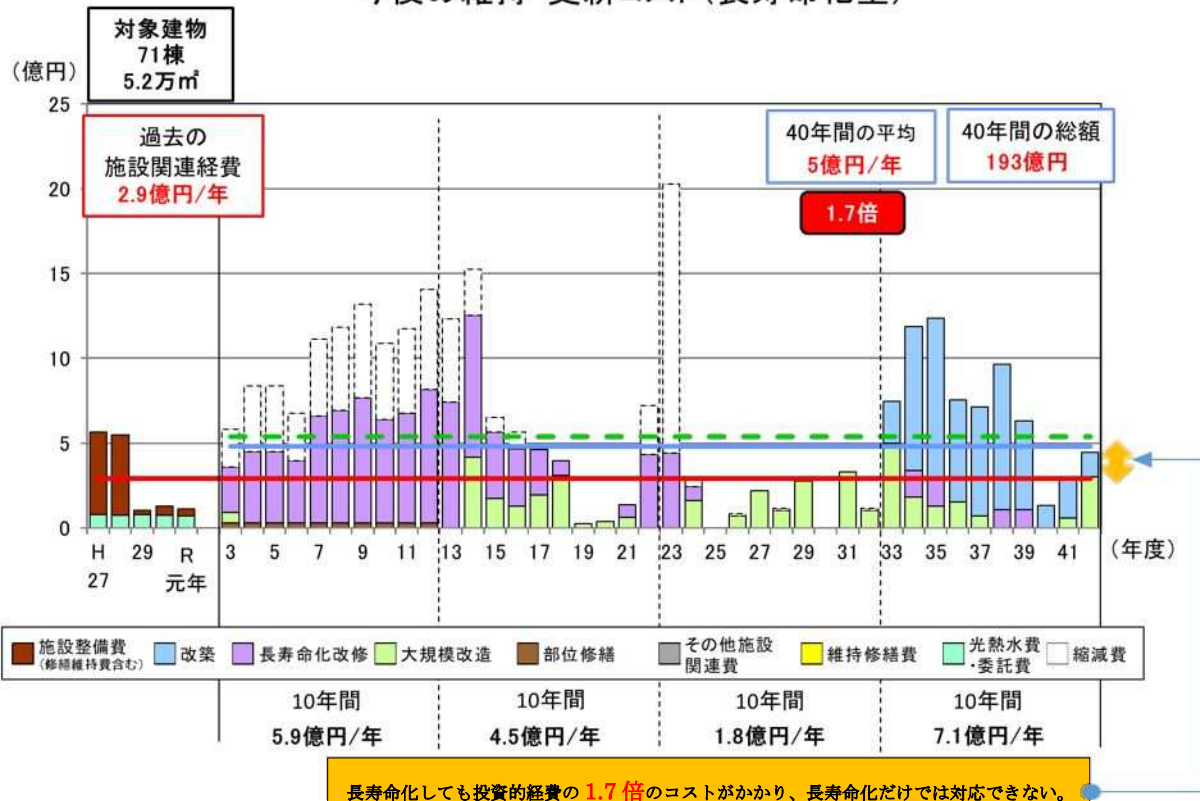
D評価: 今後 年以内に部位修繕を実施

C評価: 今後 年以内に部位修繕を実施

(ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除く)

A評価: 今後 年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



(4) 学校施設整備の基本的な方針等

① 学校施設の規模・配置計画等の方針

1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

公共施設等総合管理計画の基本方針	今後も継続して使用する施設については、「予防保全型維持管理・長寿命化による修繕・更新費の縮減【のぼす】」、「公共建築物の質と量の最適化による修繕・更新費の削減【へらす】」、「更新工事の分散・分割による修繕・更新費の平準化【ならす】」の3つの方針を基本とし、計画的に施設の維持管理を推進します。
公共施設等総合管理計画の施設類型別方針 【小中学校】	安全・安心な施設管理のために定期的な点検・診断を実施し、蓄積されたデータを基に「予防保全」・「機能改善」を中心とした中長期的な整備計画を策定し施設の長寿命化を実施します。 また同時に学校の適正規模・配置を検討し、統合や廃止も視野にいれ、通学の距離や安全性、地域の特性、地域との関係を踏まえながら、より児童・生徒の立場にたって今後の学校再編を計画します。



学校施設の長寿命化計画の基本方針	学校施設の改築（建て替え）中心から長寿命化改修へ転換を図る上で、小中学校の規模の適正化と適正配置を推進し、使用し続ける施設と使用を廃止する施設を選別します。 その上で今後も使用を継続する施設については、大規模改造時や改築時に合わせて、将来の児童生徒数の見込み等に基づき、適切な改修・改築規模を検討し、工事費の平準化を進めます。 また、改築や大きな改修後も当該施設について、定期的な点検や調査を継続し、劣化が軽度な内に対応し、施設の長寿命化によるコストの削減を図ります。
------------------	---

2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

男鹿市の全10校の小中学校は市内各地に広く点在しており、統廃合に当たっては距離的・地理的な課題があることから、各地域の特性を鑑み慎重に検討する必要がある。また、学校（地域）により児童・生徒数に大きな偏りがあり、適正規模の維持と通学距離・時間のバランスも課題となっている。

適正規模・配置の方針について

今後、令和2年12月に策定した「男鹿市立小・中学校再編整備計画」を中心に、長期的なビジョンで学校規模の適正化や適正配置に係る学校編成方針を検討していく。

男鹿市学校施設配置図



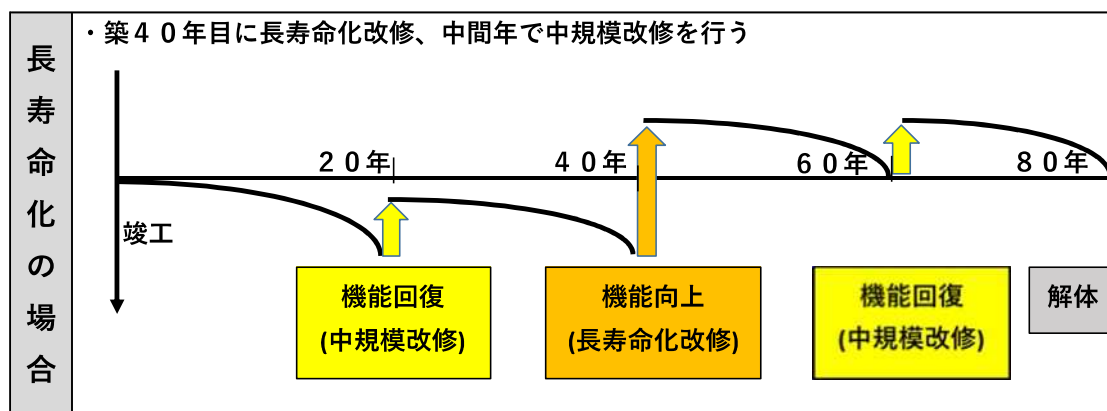
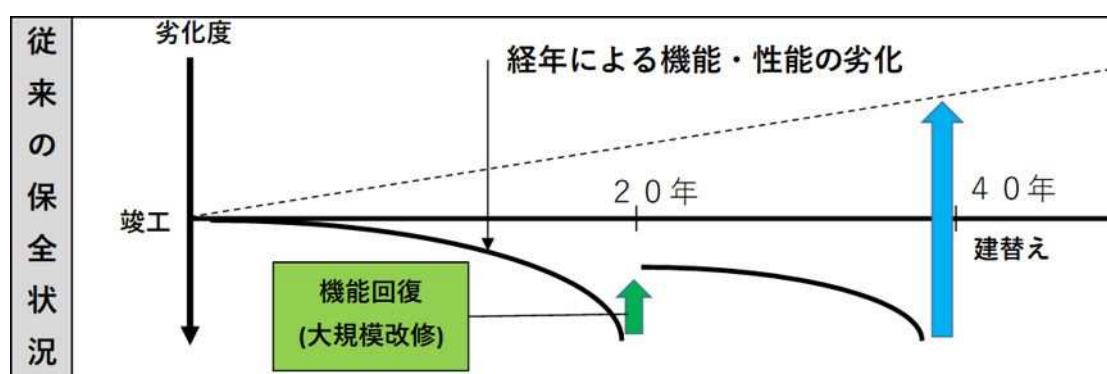
小 学 校	5 校	
中 学 校	2 校	
共同調理場・給食センター	3 施設	

② 改修等の基本的な方針

1) 長寿命化の方針

中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現するため、長寿命化改修に適さない建物を除き、改築よりコストが少なく、環境に配慮した長寿命化改修での整備を行う。

コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には60～70年程度使用できるように、築20年目で中規模改修（老朽）、築40年目で長寿命化改修、築60年目で中規模改修（老朽）を実施し、施設の機能回復を図りながら長寿命化を実現する。



2) 目標使用年数、改修周期の設定

	目標使用年数	大規模改造の周期	長寿命化改修の周期
校舎	60年	築 20年 / 60年	築 40年
体育館	60年	築 20年 / 60年	築 40年

(5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

① 改修等の整備水準

1) 建物ごと

①校舎

改築（建て替え）中心から長寿命化改修へ整備方針の重点を移行するにおいて、今後の整備で配慮すべき規模や性能については、児童生徒の将来推計や地域の実情を踏まえて各施設の整備レベルを設定し、財政計画と整合をとりつつ最適な仕様を設定する。そうすることで、将来の社会的要求水準の高まりへの対応、建物の整備レベルの統一を図る。

また、今後の小・中学校の再編整備計画による新校舎の必要性との調整も考慮する。

②体育館

体育館の屋根、外壁の改修は、既存の仕上げや劣化の状況により、「葺き替え」又は「カバー工法」を選択する。利用面からは、災害時の避難所としての機能や、地域開放・市民との共用化等を考慮した整備が求められる。

③グラウンド

多くの学校のグラウンドは、造成されて以降、大規模な改修がなされておらず、地面が削られ勾配がなくなったり、側溝が土で埋もれて機能しない等の原因による水はけの悪化や土埃の飛散などが発生し、グラウンド機能が低下している。

今後の整備としては、土砂の入れ替えや暗渠排水の埋設、フェンス等の更新を計画的に進めていくことが考えられる。

④プール

多くのプールが30年以上前に建設され、プール本体のほか、給排水管やろ過機の老朽化が進んでおり、全体的に改修が必要となっている。プール全体の改修を実施するには、多額の費用が必要となるため、今後は小規模な修繕にとどめ、プールの集約化を進めていかなければならない。

⑤共同調理場・給食センター

共同調理場や給食センターは、建物の老朽化よりも、内部の調理機器や食器洗浄機、ボイラーなどの設備の老朽化が著しい状況である。毎年少しずつ設備の修繕を実施しているが、事後保全的な面が強く老朽化の解消に至っていない状況である。

今後は、「共同調理場の統廃合」や「民間への事業委託」も視野に入れ、計画的な整備を行う必要がある。なお、これに伴い平成31年度の船越小学校調理場の廃止、令和2年度の北部共同調理場の南部共同調理場への統合が実施されている。

2) 部位ごと

①躯体

躯体の保護には、鉄筋コンクリートや鉄骨を保護するため、保護材（外壁材、塗装材、シート防水等）を改修することで、躯体への雨水やCO₂の侵入による腐食を防ぎ、躯体の劣

化（寿命短縮）を予防する。躯体の長期使用は、長寿命化の重要事項であるので、点検・調査の結果を踏まえ、計画的かつ確実に実施しなければならない。

ア 外壁

外壁は、外部からの刺激（雨、風、熱・冷気など）から躯体を保護する重要な役割を担っている。外壁の劣化（表面のひび割れ、鉄筋の爆裂など）を放置しておくとなれば躯体の劣化に直接繋がるので、計画的に樹脂注入や防錆・防水材等の塗布を実施し躯体を保護する。

イ 屋上・屋根

屋上や屋根は、直射日光や風雨などから建物を保護する役割を持ち、躯体や建物の内部環境を守っている。屋上・屋根の劣化を放っておくと、雨漏りを引き起こし、躯体の劣化や内部のカビ発生の原因となるので、計画的に屋根の張替や塗装、防水シートの改修を行い、躯体の保護や内部衛生の維持を行う。

②設備・機器

学校施設に整備された電気、ガス、水道設備等は、学校生活に直接影響し、適切に管理・維持していかなければ、最悪の場合、学校活動が停滞してしまう恐れがある。本市では、毎年設備の点検を業者に委託するなど、定期的に点検を行っているが、学校が建築されてから設備や機器の大きな改修や交換をおこなっておらず、近年設備の老朽化が目立ち始めている。特に漏水や漏電は、学校だけでなく近隣住民にも被害・影響を及ぼす可能性があるもので、発生させてはならない事項である。

毎年の点検・調査の結果を基に予防的な改修を行うため、計画的に設備の修理（部分的改修）や更新（全体的改修）を行う必要がある。

③トイレの洋式化

家庭や公共施設では洋式便器が普及し、トイレといえば洋式トイレが一般化しているが、本市の学校施設においては、設置率が令和２年度末現在で、小学校８１％、中学校５８％、小中合せて７１％となっている。学校ごとにみると一部の設置率の高い学校が１００％であるのに対し、低い学校は３７％と学校によって設置率に偏りがある状況である。

今後、設置率の低い学校を優先し「全学校の洋式便器設置率７０％以上」を目標とし計画的な改修を実施して行く。

④バリアフリーの導入

学校施設は、児童・生徒の生活の場としてだけでなく、災害時には地域住民の避難所となる場所でもある。避難者の中には、幼児や高齢者、障がい者も含まれることが予想され、できうる限り全ての人が利用できる施設を目指さなければならない。

今後、大規模な改修、改築を行う場合は、ユニバーサルデザインを考慮し、段差の解消や手摺、多目的トイレの採用など施設のバリアフリー化も積極的に進めていく努力を行う。

⑤エコの導入

これからの学校施設は、「環境への影響」や「自然との共生」も配慮した整備を行う必要がある。コンクリートだらけの校舎を整備するのではなく、緑化も推進し児童生徒が、学校生活の中で自然を感じ、学ぶことができる環境を整える。

また、限りあるエネルギーを有効に活用し、光熱水費など学校維持の負担を軽減させ、太陽光発電や省エネ機器を導入することで、学校で可視化された省エネを学べる環境も整える。

② 維持管理の項目・手法等

通し番号	XXXX-XX-X						
学校名	A学校		学校番号	1301	調査日	平成28年9月20日	
建物名	校舎			記入者	〇〇		
棟番号	1			建築年度	昭和44 年度(1969 年度)		
構造種別	鉄筋コンクリート造		延床面積	2,562 m ²	階数	地上 3 階 地下 0 階	

5 年ごとに点検を実施

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☒ シート防水、塗膜防水 ☐ 勾配屋根(長尺金属板、折板) ☐ 勾配屋根(スレート、瓦類) ☐ その他の屋根 ()	H7	防水改修	☐ 降雨時に雨漏りがある		EXP.J金物に脱落がある	C
				☒ 天井等に雨漏り痕がある	2		
				☐ 防水層に膨れ・破れ等がある			
				☐ 屋根葺材に錆・損傷がある			
				☒ 笠木・立上り等に損傷がある			
				☐ 樋やルーフトンを目視点検できない			
2 外壁	☒ 塗仕上げ ☒ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル(ALC等) ☐ その他の外壁 () ☒ アルミ製サッシ ☐ 鋼製サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネガラス	H3	外壁改修	☒ 鉄筋が見えているところがある	5	北側の劣化	D
			耐震補強	☒ 外壁から漏水がある			
		H10		☒ 塗装の剥がれ	多数		
				☒ タイルや石が剥がれている			
				☐ 大きな亀裂がある			
				☐ 窓・ドアの廻りに漏水がある			
				☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
				☐ 外部手すり等の錆・腐朽			
				☐ 既存点検等で指摘がある			

部位	改修・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	☒ 老朽改修	H5	大規模改造	B
	☐ エコ改修			
	☐ トイレ改修			
	☐ 法令適合			
	☐ 校内LAN			
	☐ 空調設置			
	☐ 障害児等対策			
	☐ 防犯対策			
	☐ 構造体の耐震対策			
	☐ 非構造部材の耐震対策			
4 電気設備	☒ 分電盤改修	H22		A
	☐ 配線等の敷設工事			
	☒ 昇降設備保守点検	H18	指摘無し	
5 機械設備	☐ 給水配管改修			C
	☐ 排水配管改修			
	☒ 消防設備の点検	H27	指摘への対応済み	
	☐ その他、機械設備改修工事			

各学校施設の維持管理を効率的・効果的に実施するため、点検・評価の項目を整理し、点検・評価の項目毎に調査や修繕方法、周期等を設定する。

点検実施にあたっては、概ね5年毎に上記「劣化状況調査票」を活用し、点検後の評価結果を踏まえ、長寿命化計画の検討を行うものとする。また、2年毎に実施する12条点検や毎年実施する消防点検等により、指摘事項があればこれらも評価に反映させる。

更に一級建築士等の資格を有する技術職員や専門技術者の協力を仰ぎ、現地立ち合いを行い、専門的な見地からの助言を受けることで、より適切な対応を行うことができる。

(6) 長寿命化の実施計画

① 改修等の優先順位付けと実施計画

直近5年の個別施設の整備計画

事業名称		2022		2023		2024		2025		2026	
		R4		R5		R6		R7		R8	
		学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費	学校名	事業費
施設整備費	新增築事業										
	改築事業										
	耐震化事業 (非構造部材の対策含む)										
	長寿命化改修			臨一小体育館 (改修工事)	59	北陽小体育館等 (改修工事)	70				
	大規模改造(老朽)	船越小 (実施設計)	40	船越小 (改修工事)	660	船越小 (改修工事)	676				
	防災関連事業										
	トイレ整備										
	空調整備	男鹿南中他 (統合移設)	3	男鹿東中他 (統合移設)	5						
	障害児等対策										
	特別支援学校の整備										
	部位修繕	船越小 (電気設備)	1			船一小他 (電気設備)	4	男鹿南中他 (電気設備)	4	北陽小・臨一小 (電気設備)	2
	その他施設整備費	アスベスト調査 (旧船川南小他)	8	旧船川南小 (校舎解体実施設計) 旧船川南小 (校舎解体)	5 70	旧五里合中 (解体)	45	旧払戸小 (解体)	70		
	維持修繕費		10		10		10		10		10
	光熱水費・委託費		80		80		80		80		80
合 計			142		889		885		164		92

② 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

今後 26 年間の計画は、長寿命化による維持・更新コストの総額 193 億円／40 年を平準化する。

今後 5 年間（令和 3 年度～令和 7 年度）を、これまでの投資的経費 2.9 億円／年に抑えた場合、その後の令和 8 年度以降の 20 年間は 5.1 億円／年となる。

今後の学校施設の維持・更新コストは、長寿命化をしても過去 5 年間の投資的経費の約 1.7 倍に増加すると見込まれている。児童生徒数が減少する中で施設の維持・更新が増加するという矛盾を抱えており、①施設保有の考え方、②維持・更新コストの削減及び財源確保は大きな課題となる。個々の学校施設の長寿命化（保全計画）だけでは限界があることから、財政制約ラインとコストとの乖離を埋めていくため、学校施設の配置や規模、運営面・活用面等に及ぶ多面的な見直しが必要であり、適正化に向けた総合的な取組の方針のもと、存続を見込む学校の建替え、長寿命化、また閉校する学校の除却、転用、譲渡を検討する。

(7) 長寿命化計画の継続的運用方針

① 情報基盤の整備と活用

学校施設の基本情報となる学校施設管理台帳、光熱水費をはじめとする運営経費、工事履歴や劣化情報を一元管理し、現地確認を行った上で施設の状態や過去の改修・交換履歴、事故・故障の発生状況等をデータベースに蓄積するとともに、12条点検等の継続的な点検・調査の結果に基づいて、適切に更新を行っていく。

また、蓄積されたデータを活用し基本的な対応マニュアルを作成することで、今後の施設維持管理担当者への引継ぎを簡略化し、マニュアルによる共通の管理・対応手段の構築を図る。

② 推進体制等の整備

学校施設の所管課である教育委員会教育総務課を中心に、本計画を軸とした学校施設マネジメントを実施していくが、必要に応じて日常的な施設管理に対する支援体制を築き、技術職員の所属する建設課や企業局等の関係機関と連携し、全庁的な体制で対応を図っていく。

消防設備や自家用電気設備等、日常的・定期的に保守・点検が必要なものについては、民間事業者へ委託し、その結果や報告に基づいて随時対応できる体制を整える。

また、担当する職員へは、研修等を通じた職員の知見の習得や意識啓発を行い、発生した事象に迅速かつ適切に対処できる人材育成を行うと共に、施設マニュアルの整備を行い、全職員がいつでも一定の対応ができる体制を整える。

本計画の進捗確認や見直し・改定に当たっては、所管課だけでなく教育委員会と首長部局との全庁横断的な検討体制を整え、定期的に協議を行い、協議結果を的確に反映させていく必要がある。特に財政課との連動ではコスト面、企画政策課との連動では人口推計や他の公共施設の整備状況との整合・調整を行っていく上で、重要となってくる。

③ フォローアップ

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するものであり、男鹿市総合計画の中で年次及び個別の事業費を精査していく。また、事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映して、本計画は見直しを図るものとする。